

キャリア教育(進路指導)計画

鈴木慎・横澤・小松・鈴木清

1. 目 標

自己理解を深めさせ、正しい職業観・勤労観の育成を図りながら、自らの生き方を追求し、自己実現をめざす生徒を育成する。

2. 方 針

- (1) 学級活動で扱う進路指導の授業を中核としながら、各教科、道徳、他の特別活動、総合的な学習の時間等、教育課程全体にわたって指導に取り組む。
- (2) 職業的発達に関わる4能力領域の育成を図る視点に立つ。
- (3) 様々な学習活動の中で肯定的な自己理解を深め、夢や希望を持って生活できるようにする。
- (4) 進路情報の提供と進路相談等の適切な支援を行い、生徒の希望する進路実現をめざす。
- (5) 保護者との連携を密にするなどして生徒理解を深め、生徒とのよりよい関係を築き指導にあたる。

3. 重 点

- (1) 教育課程全体にわたって、職業的発達に関わる4能力領域の育成を目指す視点を持ち指導にあたる。
- (2) 学級活動並びに総合的な学習の時間に扱う職業指導・進路指導関連の授業の充実を図る。
- (3) 2年生の総合的な学習の時間で行う職場体験の日数を拡大(5日間連続)して実施する。
- (4) 進路相談の充実並びに進路指導資料の整理と有効活用を図る。

4. 重点のための具体策

(1) について

- ① キャリア教育全体計画を新たに作成し、その中に職業的発達に関わる4能力領域(「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」と、それに関する具体的な能力・態度を全体計画の中に明記し、その育成に努める。
- ② 学校研究との関連を図り、研究推進委員会内で授業研究・改善に関する検討を行う。
- ③ 教科部会・学年部会・道徳部会・特活部会・総合的学習部会(・進路指導委員会)内でキャリア教育に関する指導について検討し、全体計画や年間指導計画内に指導内容等を明記し実践にあたる。

(2) について

- ① 職業指導・進路指導に関わって、学級活動並びに総合的な学習の時間の年間指導計画を系統性・整合性をふまえて作成する。
- ② 「中学校生活と進路」を活用し、各学年の目標にそった授業を展開する。
- ③ 生活規律、集団づくり、学業指導など、学級活動の他の内容と関連を持たせながら指導する。

(3) について

- ① 町の関係機関や受け入れ先の職場と連携を図り実施する。
- ② 働くことの意義と責任、働くために必要とされる社会性・専門性等、職場体験を通して学習する内容を明確にして事前・事後の指導を計画的に行う。また、事後指導の中で体験後の感想文やお礼文を書かせ互いの文章を発表し合う活動を行う中で、体験で得た前向きな職業観・勤労観をさらに深化させる。

(4) について

- ① 各学年とも1学期に生徒全員対象の教育相談を計画し、その中で必要に応じて進路相談も行う。3年生については12月に全員対象の3者面談を行う。
- ② 1・2年生の学年末、及び3年生1・2学期末等に進路に関する希望調査を行い、生徒や保護者の意識・意向を捉え、それに基づいた相談を行う。
- ③ 進路指導資料はファイルに保管し、職員室東側の棚に整理して保管する。